

1 研究テーマ

『運動の楽しさや喜びを味わう体育学習』

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	人数	場所	期日	人数	場所	期日	人数	場所
5月26日	29人	御船小	11月1日	21人	広安西小	11月22日	26人	広安西小	1月27日	28人	小坂小

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① 研究テーマ設定の理由

小学校の体育では、「心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。」を目指している。この目標を達成するためには、児童一人一人が喜んで生き生きと取り組む体育学習を創造し、生涯にわたり運動に親しむことのできる資質や能力、態度の基礎を育成しなければならない。そこで、今年度も本研究テーマを設定し研究することにした。

また、運動領域においては、学習内容を明確にし、確実に身に付けさせるための適切な指導の在り方とし、保健領域においては「学習過程の工夫」と「ライフスキルの育成」、共通の視点として「指導と評価の一体化」に焦点を絞って研究を進めることにした。

② 研究の重点（学習指導要領の趣旨にもとづいた実践）

	重 点		授 業 の 主 張 点
運動領域	・ 学習内容の明確化 ・ 指導方法の工夫・改善 ・ 課題解決学習 ・ 豊かなかかわり合い	一 体 化 指 導 と 評 価 の	① 教材の特性（設定理由を明確に） ② 身に付けさせたい学習内容の明確化 ③ 教師の意図的・計画的な指導 ④ 教具やルールの工夫
保健領域	・ ライフスキルの育成		① 学習過程の工夫

③ 研究の実際

ア 研究授業①（益城地区）

1年「多様な動きをつくる運動遊び（体づくり運動）」授業者 高崎浩志教諭（広安西小学校）
11月に行われた県大会の事前授業としての提案であった。児童が主体的に運動を楽しむ工夫として、ストーリー性を取り入れたり、様々な場を用意されたりしていた。

イ 研究授業②（県小学校体育研究発表大会）

※実践事例参照

1年「多様な動きをつくる運動遊び（体づくり運動）」授業者 宮本智子教諭（広安西小学校）

ウ 研究授業③（県小学校体育研究発表大会）

3年「多様な動きをつくる運動（体づくり運動）」授業者 竹田 直樹教諭（広安西小学校）

児童の実態から、運動を日常化へ繋げることを意識された授業であった。児童が主体的に運動を楽しむために、計画的な直接的指導（単元の指導計画と評価計画・具体的な子どもの姿・授業場面への位置付け）や仲間とのかかわりの活性化（場や教具の工夫・伝える視点の焦点化・ポイントやこつの共有化）について工夫されていた。

エ 研究授業④（御船地区）

4年「多様な動きをつくる運動（体づくり運動）」授業者 皆吉 美香教諭（小坂小学校）

「楽しむ」「工夫」「かかわり合い」をキーワードに、児童が主体的に運動を楽しみ、いろいろな運動を行ったり、組み合わせたりすることをねらった授業提案であった。

(2) 成果と課題

① 成果

- 震災後の県大会開催が心配されたが、実施することができた。県大会へ向けて理論的なことや、授業づくりに関することなどをみんなで深めることができた。
- どの授業でも、児童の実態を考慮した上で、「いつ」「どこで」「どのように」指導するか、意図的・計画的な指導計画が作成され、見通しを持った指導ができていた。
- 身に付けさせたい学習内容の定着のために、教材教具の工夫や場づくり、ルールなどの工夫がどの授業においてもなされ、児童の技能の向上や仲間とのかかわり合いを深めることに有効であった。

② 課題

- 「もとになる動き」「直接的指導」など、言葉について共通理解を図っていく必要がある。

4 実践事例 1年「多様な動きをつくる運動遊び(体づくり運動)」授業者 宮本 智子教諭

(1) 授業研究会の概要

【自評】

児童が全員そろって楽しく活動することができた。児童の運動に対する意欲は高かった。特別な支援を必要とする児童が2人いるが、楽しんでいただけた。反省点が2つある。ボールの場が狭かったこととめあての確認がきちんとできていなかったため、自分たちで判断している場があったことである。

【質疑応答及び協議】

質) 「投げる」「とる」の2つの動きだったが、評価はどうされるのか(投げ方・とり方)

応) 投げる、とるの幅広い経験が必要だと思う。

応) 「多様な動き」なので、ボール運動と違って深く追求するのではなく、いくつもの動きを経験させたいと思う。

質) 本時に身に付けさせたい力は何だったのか。後半は、ボール以外の場もあった。

応) いろいろな技に挑戦する中で、技能を身に付けることができることを意図していた。

質) 指導の場面で目線にした意図は何ですか。

応) 夏の研究会では、膝を曲げてであった。1年生にどこまで求めるのかを考えた結果、目線になった。何となくとるのではなくて、とるまで見ると考えた。

質) これまでの活動で、目線はできていたのではないかなと思う。手の向きなどの動きについても気づかせていいのではないかなと思う。

応) 無意識にしている児童もいる。一度意識させることで、技が広がるのではないかなと思う。

応) 前時までに、1人技で準備していた。1人でとることができていた。

質) 2人技では、どんな技をイメージしていたのか。

応) ボールを入れ替えて互いにキャッチや、下をくぐらせる、組み手で投げる等です。

質) レシーブの子を取り上げた意図は何ですか。

応) 意図して取り上げたのではなかった。

質) ボールを使った場を後半で用意しておく、めあてに迫ることができたのではないかなと思う。

また、パワーゲットの証があると、ストーリーも高まり、意欲も上がったのではないかなと思う。

応) ボールを蹴ったりしている児童もいたので、ストーリー性の持たせ方は課題だった。

応) 低学年の特性もあり、集中力の続け方が課題だった。スイッチオンタイムでは、1時間で身に付くものではない動きを帯状に設定した。ゲット証は、シートに記入できるようになっている。

質) 用具を操作するものが後半にきてもよかったのではないかな。

応) 前半は、いろいろな動きを楽しむ。後半は動きの質を高めていく。

意) 戦隊ものは、敵を倒すものなので、ストーリーの続きがあるとパワーの意識も上がったのではないかなと思う。

【助言・まとめ】

新しい学習指導要領の方向性として、アクティブ・ラーニングがある。何を学ぶか、どのように学ぶか、何ができるようになるかである。体育ではこれまでやってきたことである。今日の授業では「なぜ目線だったのか」、とることで大切なことをいろいろ出させてみるといい。目や落下点等々いろいろ出てくると思う。そして、でてきた中で共有化していく。低学年でもコミュニティーボードを活用してもいいと思う。また、学習シートの記入では、めあての評価を大切にしたい。その際は、1単位時間の中で記入するようにしてほしい。

(2) 学習指導案（一部抜粋）

第1学年 体育科学習指導案

平成28年11月22日（火）

場所 体育館

指導者 広安西小 宮本智子教諭

① 単元名 「体力を高める運動遊び」

（A 体づくり運動 イ 体力を高める運動遊び）

② 単元について

ア 運動の特性

○多様な動きをつくる運動遊びは、体の基本的な動きを総合的に身に付けることをねらいとして行う運動である。

○多様な動きをつくる運動遊びは「体のバランスをとる運動遊び」「体を移動する運動遊び」「用具を操作する運動遊び」「力試しの運動遊び」で構成される。

イ 児童の実態（男子19名 女子15名 計34名）

○運動について

平成28年度体力テストの結果によると、男子は上体起こし、長座体前屈、50m走が県基準値を上回っている。女子は、長座体前屈、50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げが県基準値を上回っている。男女ともシャトルランが県基準値を下回っている。一方、児童の運動経験を見てみると、多様な運動遊びリーフレットに例示してある竹馬遊びなどの運動経験が少ないことが分かった。また、震災の影響で運動場や体育館で体育の授業を行えないことや、休み時間も外で遊ぶ場所が少ないことなどから、学校で思いっきり体を動かす機会が少ない現状にある。

○態度について

指導者自作アンケート（自由記述式）の結果によると、多くの児童が「体を動かして遊ぶのが好き」と回答しており、運動や体育の授業に関して、関心・意欲は高い。「やや嫌い」と答えた児童が18%いたが、その理由は「きついから」「面倒だから」「遊ぶ所がないから」などであった。「複数で遊ぶ方が好き」と答えた児童が67%であったが、その一方で「1人で遊ぶ方が好き」と答えた児童が33%いた。ここから、仲間と一緒に活動する喜びを味わわせるような取組を考えなければならないことが分かる。児童同士がかかわり合いながら、楽しく主体的に活動できるような授業の工夫が必要であると考えられる。

○思考・判断について

水遊びの学習カードでは、自分のできた技に色をぬることができた。しかし、これまであまり思考・判断を高めるような学習経験を行うことができていない。仲間のよいところを見付けたり、まねしたりする活動を意図的に仕組んでいく必要がある。

ウ 指導上の留意点

○児童が運動遊びを楽しむことができるように、運動のイメージが膨らむようなストーリー性を持たせた場づくりを行う。

○児童のこれまでの運動機会及び運動経験が不足していることから、体育の学習を通して思い切り楽しませ、日常生活へつなげたい。

○評価をより具体的な子どもの姿で描くとともに、きめ細かな見取りによる積極的かつ双方向的な指導の場面を位置付け、指導と評価の一体化を図る。

○単元前半で、いろいろな運動遊びを経験させて体を動かすことそのものの楽しさを感じることができるようにローテーション活動を取り入れる。

○単元後半では、児童が「できた」経験を数多く味わい、より運動の楽しさを感じることができるように、児童の課題に応じた視点を授業場面に位置付ける。

○仲間とのかかわりや運動の心地よさを体感させたり、苦手意識を持つ児童を運動に引き込んだりするために、毎時間の始めに「スイッチオンタイム」を位置付ける。

○児童が運動遊びを楽しむことができるように、積極的に仲間とのかかわり合いながら運動を行うことのできる場や教具を工夫する。

○仲間と伝え合いながら課題を解決できるように、体の各部位に着目した言葉や動きをイメージした言葉を活用してよい動きの共有化を図る。

③ 単元の目標

○用具を操作する運動や力試しの運動をすることができるようにする。（運動）

○運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動したり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。（態度）

○多様な動きをつくる運動遊びのための簡単な行い方を工夫することができるようにする。

（思考・判断）

④ 本時の学習

ア 目標

○両手や片手でボールを投げたり捕ったりすることができる。（技能）

イ 展開（6／7）

過程	学習活動	指導上の留意点・評価	準備物
導入 8分	1 場づくりする。 2 スイッチオンタイムをする。	・毎時間の始めにスイッチオンタイムを位置付け仲間とのかかわりや運動の心地よさを体感させたり、苦手意識を持つ児童を運動に引き込んだりする。	単元計画 学習カード 音楽
展開 30分	3 めあてを確認する。 いろいろな技（ボール）に挑戦しよう。 4 動きを工夫しながら、ボールを投げたり捕ったりする運動を行う。 【4つのグループ】 〈積極的かつ双方向的な指導場面の例〉 T「落とさないように捕るときは、目はどこを見ていますか。」 C「ボールを見ています。」 T「どうして見ていたの。」 C「見ていないと捕れないもん。」 T「じゃ、どんなふうに見るの。」 C「捕る前にしっかり見ます。」 C「しっかり見るんだね。」  【直接的指導場面】 〈具体的な子どもの姿〉 ・ボールに視線を向け、いろいろな投げ方や捕り方を試している。	・自分のめあてを確認させる。 ・いろいろな投げ方、捕り方を記した「わざカード」を参考にさせ、自分のめあてをもって運動に取り組めるようにする。 ・伴奏音楽を活用し、児童が楽しんで運動できる学習環境をつくる。 ・互いに声を掛け合ったり、励まし合ったりしているグループを積極的に賞賛する。 【能動型学習ポイント】 ○見付けたよい動きや教師や仲間からのアドバイスなどをコミュニティボードに示し、児童が見付けた動きやよい動きを児童が共有できるようにする。 【徹底指導のポイント】 ○きめ細やかな見取りによる積極的かつ双方向的な指導場面を位置付ける。 <評価>◇技能（観察：学習カード） B基準：両手や片手でボールを投げたり捕ったりしている。 ※B基準に達成しない児童への支援 ・できている児童を模範として投げ方や捕り方などを参考にさせたり、教師と一緒に取り組んだりする。	ビブス 各種ボール ホッピング 竹馬 缶バッチ 音楽 コミュニティボード
整理 7分	5 学習のまとめをする。 6 後片付けをする。	・学習カードを使って本時の自己評価をさせて、次時の学習の見通しを持たせる。 ・頑張っていた児童を賞賛したり、発見したポイントを発表したりすることで、次時の意欲付けとする。	学習カード

